

平成29年11月 9日  
松山河川国道事務所

まつやまそとかんじょう  
松山外環状道路空港線 側道部(国道56号～松山空港)  
～開通1ヶ月後の整備効果～

平成29年9月18日に開通した『松山外環状道路空港線 側道部(国道56号～松山空港)』について、開通1ヶ月後の整備効果をお知らせします。

**効果① 所要時間が短縮**

○松山空港と松山IC間の所要時間が約4割短縮(約28分→約16分)し、交通拠点間のアクセス性が向上。

**効果② 利用経路が転換**

○アクセス性向上により、松山空港周辺と松山IC間を移動する車両の過半数(約7割)が今回開通区間を利用。

**効果③ 並行路線の交通量が減少**

- 今回開通区間の交通量は約12,600台/日。
- 外環インター線の自動車専用道路部の交通量が約4割増加。(約12,600台/日→約18,000台/日)
- 並行する周辺道路の交通量が最大で約3割減少。

※本施策は、四国圏広域地方計画の広域プロジェクト【No.5 地域の自立的・持続的発展に向けた「資国」産業競争力強化プロジェクト】の取組みに関連します。

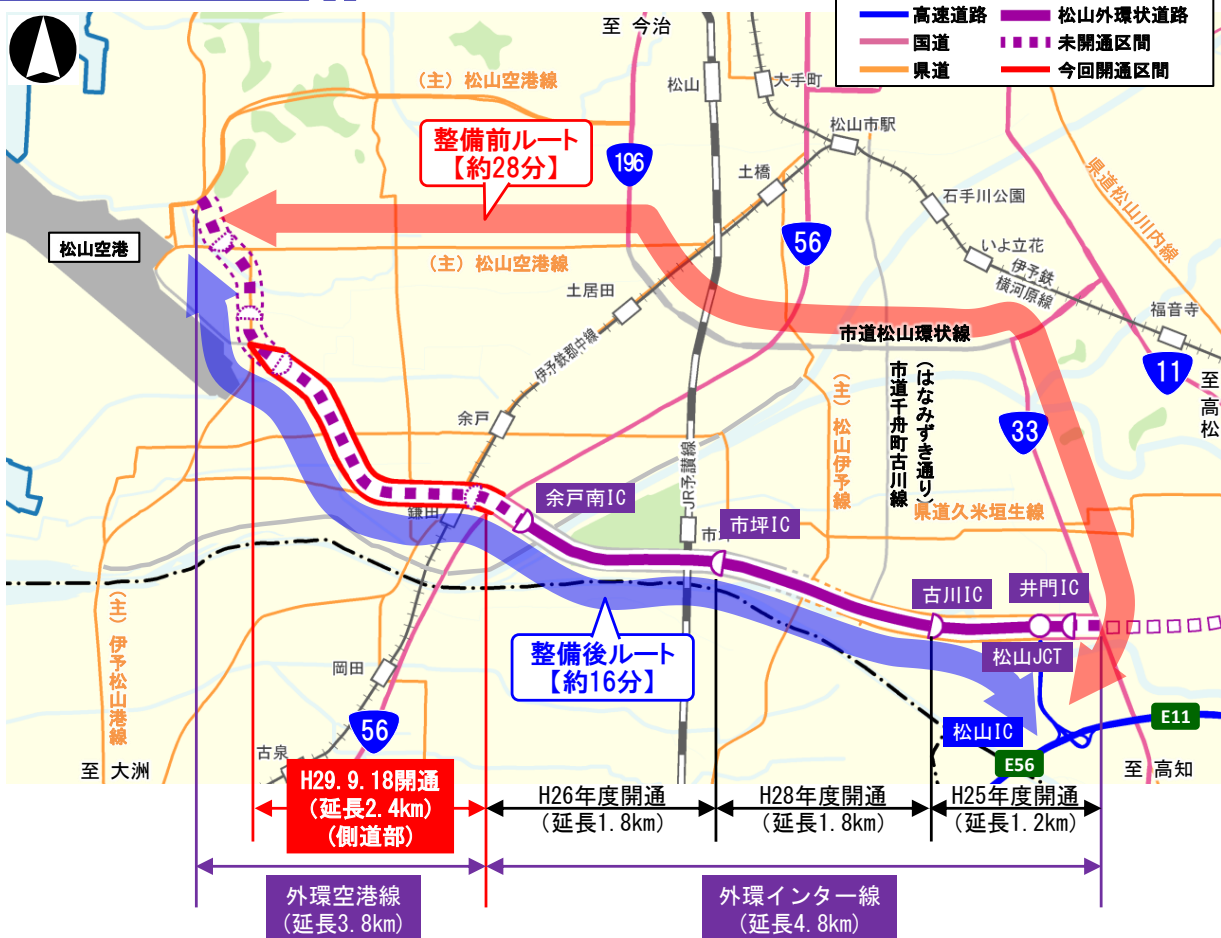
問い合わせ先：四国地方整備局 松山河川国道事務所 計画課  
副所長(道路)：森本 英二 (内線：205)  
◎ 計画課長：福田 尊元 (内線：261)  
代表 089-972-0034  
直通 089-972-0415  
FAX 089-972-8117

◎：主な問い合わせ先

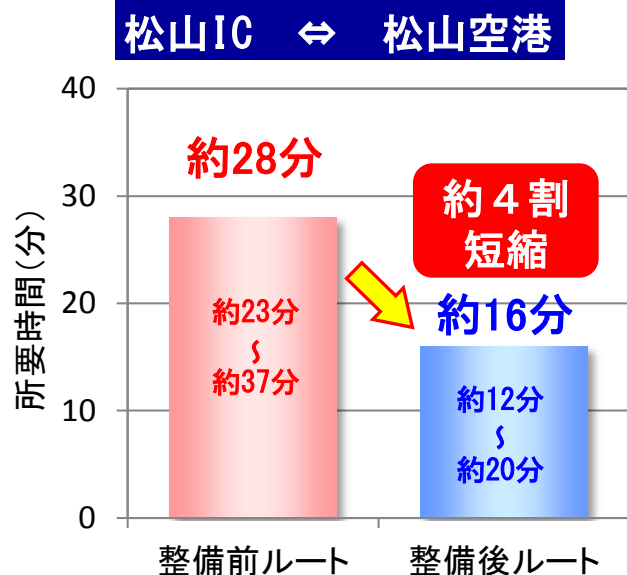
# 松山空港～松山IC間の所要時間が短縮

○松山外環空港線（側道部）整備により空港と松山IC間のルートが形成され、松山外環整備前と比較して松山ICと松山空港の所要時間が、約28分→約16分へ約12分短縮（約4割減）し、交通拠点間のアクセス性が向上。

## 位置図



## 所要時間の変化



〈データ出典〉

ETC2.0プローブデータ

整備前：平成29年 6月10日～平成29年 7月 9日

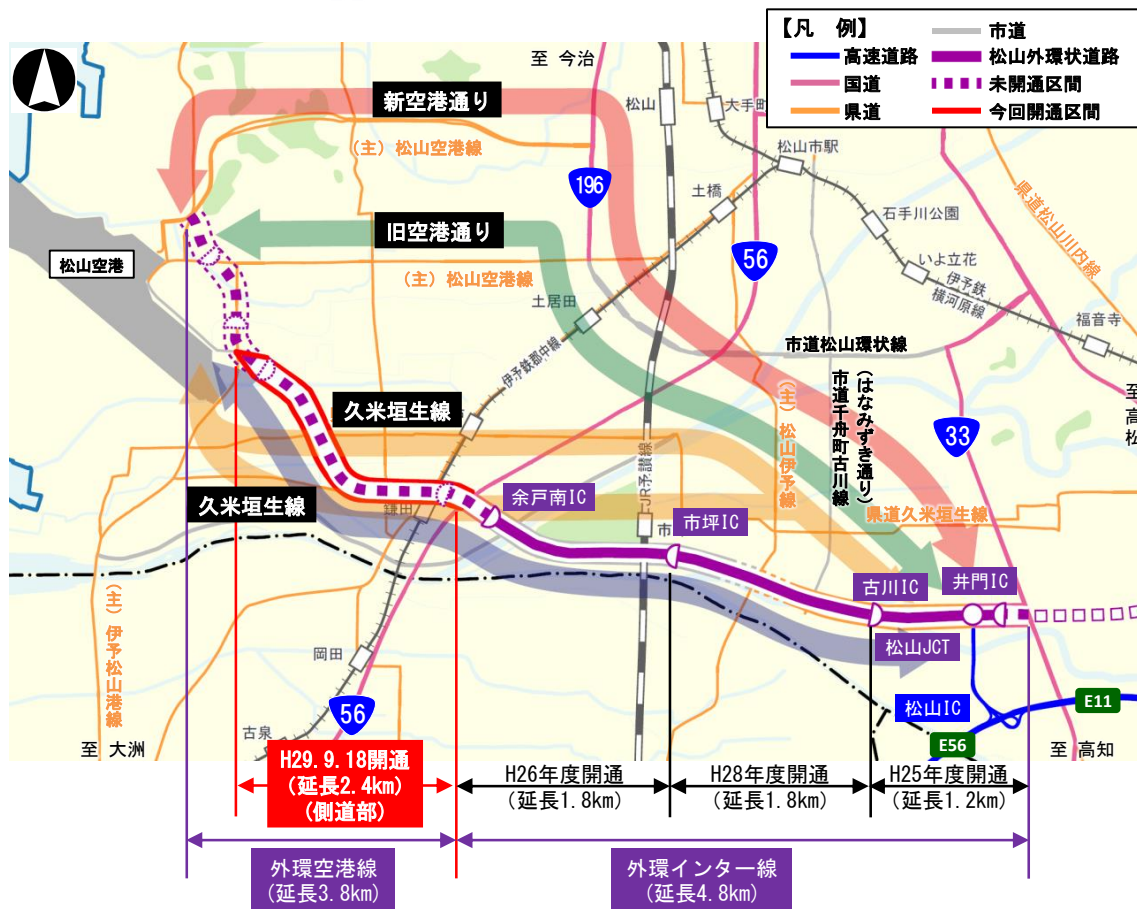
整備後：平成29年 9月20日～平成29年10月19日

7時～19時の平日平均値

(国体期間 9月30日～10月10日を除く)

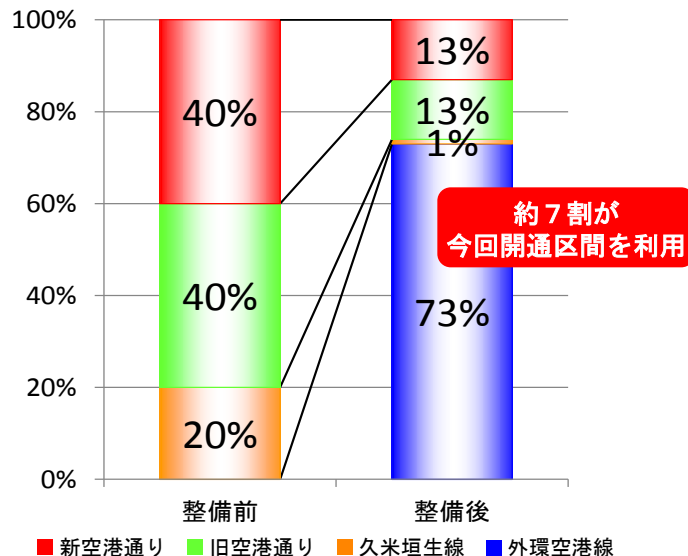
○松山外環空港線側道部開通後、松山空港周辺と松山IC間を移動する車両の約7割が今回開通区間を利用し、並行路線の新空港通り、旧空港通り、県道久米垣生線の利用割合が減少。

## 位置図



この地図は、国土交通省国土政策局「国土数値情報」をもとに編集・加工したものである。

## 松山空港～松山ICの経路分担の変化



### ○運送業者の声



開通前は市道松山環状線などを通っていましたが、空港線側道部を利用出来るようになり、時間短縮につながっています。本線部の早期開通を待ち望んでいます。

〈データ出典〉

ETC2.0プローブデータ

整備前：平成29年 6月10日～平成29年 7月 9日

整備後：平成29年 9月20日～平成29年10月19日

※7時～19時の平日平均値で比較（国体期間 9月30日～10月10日を除く）

※松山空港周辺から松山IC間を移動する車両を対象に集計。

なお、国道56号以東の経路は、主要道路を利用する車両を対象に集計。

# 並行路線の交通量が減少

- 開通1ヶ月後の松山外環空港線（側道部）の交通量は約12,600台/日。
- 松山外環インター線の自動車専用道路部の交通量は約18,000台/日で、整備前に比べ約4割増加。
- 周辺道路では、整備前に比べ、旧空港通りが約1割減少、県道久米垣生線が約1割減少、市道余土96号線が約3割減少。
- 本線高架橋部が未開通の松山外環と国道56号の交差点では、一部渋滞が発生する時間帯もあり早期の整備を推進。

## 位置図



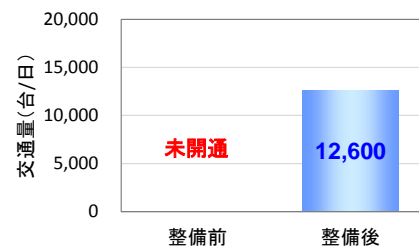
この地図は、国土交通省国土政策局「国土数値情報」をもとに編集・加工したものである。

〈データ出典〉  
機械観測データ  
整備前：平成29年 6月10日～平成29年 7月 9日  
整備後：平成29年 9月20日～平成29年10月19日  
※0時～24時の平日平均値で比較  
(国体期間 9月30日～10月10日を除く)

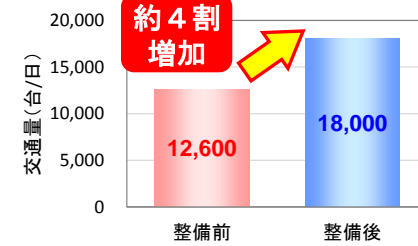


## 開通前後の交通量の変化

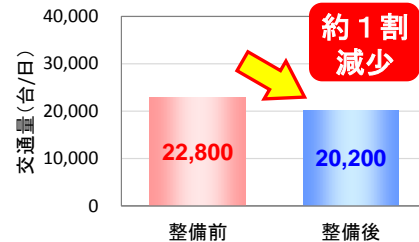
断面A (空港線側道部)



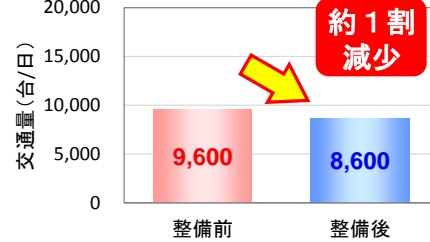
断面B (インター線自専部)



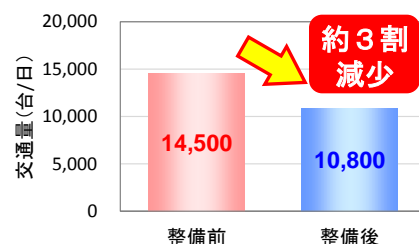
断面C (県道松山空港線)



断面D (県道久米垣生線)



断面E (市道余土96号線)



断面F (国道33号)

